

温故知新

現在、日本卵子学会も会員数は2,100名を超え、胚培養士の育成のための学会として機能しています。JMOR (Journal of Mammalian Ova Research) は日本卵子学会の機関誌としてやってきました。JMORは、胚培養士の育成のために存在しないといけないと思います。

もともと本学会は、哺乳動物の卵子・精子の形成、受精、胚発生、着床、妊娠および遺伝に関する研究について研鑽を深めることを目的とし、生殖医療の基礎研究者と臨床家が、研究DATAを持ち寄って議論をするところから始まっています。近年では、体外受精や顕微授精などの生殖補助医療分野に関するテーマが主となっています。その思いは、現在でも全く変わらず、本学会に連続していると思います。今回、JMORを新生JMORとして発刊するに当たり、哺乳動物卵子談話会、哺乳動物卵子研究会、哺乳動物卵子学会の時代から本学会を立ち上げ、展開してきた諸先生方の当時の熱意と苦勞をお聞かせいただき、今後の本学会のさらなる発展に寄与していただきたいというご提案を、理事長の河野友宏先生よりいただき、日本卵子学会の歴史として企画させていただきました。まさに生殖医療の温故知新としてお読みいただければ幸いです。

従来JMORは、優良なコンテンツを提供してきたと考えています。特にMini reviewは、各号の担当編集委員が企画し、生殖に関わる基礎から臨床まで担当編集委員の専門分野のトップクラスの研究者に執筆を依頼しており、学術レベルの高いものとなっています。事実BioOneにおける論文参照も多く行われていました (RMBへの統合決定時にBioOneとの契約は終了しています)。1996年東北大学の佐藤英明先生が編集委員の時代に、これらのコンテンツを世界に発信すべくインパクトファクターを獲得する雑誌を目指して英文誌JMORの発行を開始しました。その後、卵子学会は、常にmedlineへの掲載を目指して参りました。2014年、Pubmed Central (PMC) への掲載を目指して申し込みましたが、当時のJMORは和文誌と英文誌が混在していたため、門前払いをうけました。そのため、2016年より和文誌の日本卵子学会誌JOR (Journal of Ova Research) と英文誌のJMOR (オンラインジャーナル) に分けて、二本立てとしました。しかしながら、2012年までは、原著論文数が10編以上常にありましたが、それ以降は一桁の状態に、残念ながらこのような状況ではPMCへの掲載はかなわぬ夢と終わりました。そこで学術的評価の高いmini reviewを世界に発信するためにもRMBに参加することに決定しました。新生JMORは日本卵子学会誌と再統合し、日本語の総説、特集、原著論文を主として担当していきます。

一見すると、日本卵子学会編集委員会は迷走してきたようにみえますが、一貫して、JMORの優良なコンテンツを世界に発信しようとした結果です。

生殖医療領域の技術は、諸先輩方が、まずIVF、ICSIに成功して、私達の世代が引き継いで、得られた成果をさらに技術革新して、次の世代に引き継いでいく必要があります。生殖医療技術の進歩に終わりはないと思いますが、技術の進歩のもたらす恩恵とともに、私達は、倫理的問題については常に考慮していかなければならないでしょう。

参考：日本卵子学会の沿革（ホームページより）

昭和35年5月9日

哺乳動物卵子の研究を行っている農学および医学系の研究者によって哺乳動物卵子談話会を発足.

昭和59年4月5日

哺乳動物卵子談話会から哺乳動物卵子研究会に移行. 同時に哺乳動物卵子研究会誌を発刊.

平成2年8月

第15期日本学術会議, 学術研究団体登録.

平成3年4月27日

哺乳動物卵子研究会から哺乳動物卵子学会に移行.

平成3年8月

郵政省より学術刊行物指定; 郵政企第21号.

平成5年9月

第16期日本学術会議, 学術研究団体登録.

平成8年6月21日

哺乳動物卵子学会から日本哺乳動物卵子学会へ名称変更.

英文誌『Journal of Mammalian Ova Research (JMOR)』を発刊.

平成8年9月

第17期日本学術会議: 学術研究団体登録 (関連研究会: 畜産学, 泌尿・生殖医学).

平成11年9月

特許庁より特許法第30条第1項等の規定に基づく学術団体に指定.

第18期日本学術会議, 学術研究団体登録 (関連研究会: 畜産学, 泌尿・生殖医学).

平成14年4月

第1回生殖補助医療胚培養士認定制度を発足.

平成14年9月

第19期日本学術会議, 学術研究団体登録 (関連研究会: 畜産学, 泌尿・生殖医学).

平成19年4月

第1回生殖補助医療管理胚培養士認定制度を発足.

平成25年4月

学会名称を日本卵子学会と改称.

平成25年11月

一般社団法人日本卵子学会を設立.